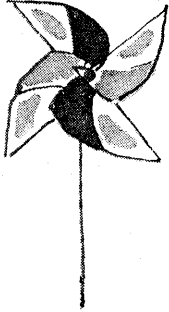


幼児の唱歌の

うつりかわり



小林つや江

幼児の「うた」について昔から今までどのように変わってきたかについて考えてみたいと思います。
「幼児の歌」は大昔からあったようですが、このたびは明治のはじめにさかのぼってみます。

明治五年に学制が公布されましたが、「唱歌は当分乏を缺く」とありました。明治七年伊沢修二は新設の愛知県師範学校長となつた時同校付属幼稚園で「遊戯唱歌」の指導をしていました。この時外国曲（スペイン民謡）に当時師範学校の先生野村秋足（有名な国学者）に命じて、「何かこの地方におもしろい童謡があったら採用したいからさがすように」といいました。野村先生は蝶々の童謡をとりその下半分をかえて今日のような歌詞にしたといっています。このことは現代の「わらべうた」運動の元祖といつてもよいでしょう。またその唱歌に「遊戯」（手ぶり）をつけて歌わせたところ非常に喜んだということです。このほかに「椿」「ねずみ」など研究がされています。

明治六年に東京女子師範学校（現在のお茶の水女子大学）が開設され、同九年には付属幼稚園が開設されました。その保育科目の細目に「唱歌」がありました。また明治十一年文部省が出した幼稚園保母練習科規則中に「音楽唱歌」が学科としてのつています。このようなことから、東京女子師範学校は十一年に式部雅楽

風車

「保育唱歌」より

1. かざぐるま かぜの
2. みずぐるま みずの

まにまに ーに めぐる なり
まにまに ーに めぐる なり

やーま ず めぐ るも
やーま ず めぐ るも

やま ず めぐー るー も
やま ず めぐー るー も

科に「保育唱歌」の作製を依頼しました。「風車」^{かざぐるま}「冬の団居」^{まどい}「越天楽」などを幼児に教えました。これが音楽教育の初めでありま

す。
西では愛知師範学校、東では東京女子師範学校と時を同じくして幼児の歌曲を研究をされたことはおもしろいと思います。

上の「風車」を歌ってみてください。のどかな曲想をもっています。

●「幼稚園唱歌集」(全二十九曲)は明治二十年(文部省音楽取調掛)に出版されながら幼児教育のために歌われました。この中で現代でも歌われている歌曲は

「蝶々」「かすみかくもか」「若駒」「風車」「蜜蜂」「かぞえうた」など、この中の「風車」は雅楽で作曲され、「かぞえうた」はわらべうたです。あとの曲は外国曲に日本の歌詞がつけられています。明治十七年国語学者の物部高見^{ものべたかみ}が言文一致論を提唱してから言文一致唱歌が作られるようになりました。

●「幼稚園唱歌」は滝廉太郎編で明治三十四年に出版されました。これは日常のはなし言葉に曲がつけられていますので親しみやすく、歌いやすく現在でも「水あそび」「はとほしほ」「お正月」など、あそびがつけられて歌っています。

つぎに大正時代になり、

● 「赤い鳥童謡集」は一集から八集まで（大正八年―十四年）出版されました。これは大正七年鈴木三重吉編集の児童雑誌「赤い鳥」の中の詩に作曲したもので、今までの唱歌とはうってかわった自由な童心をうたっています。そして童謡全盛時代をつくりました。「雨」「金魚のひるね」「靴が鳴る」などたくさんよい童謡ができました。

● 「えほんしょうか」日本教育音楽協会編昭和六年―十二年（春・夏・秋・冬）（秋・夏）新しい詩に曲がつけられ子どもよろこぶ歌曲が生まれました。「ちゅうりっぷ」「こいのぼり」「もみじ」などは現在でも全国の多くの幼稚園・保育園で歌われています。（小学校が十六年には国民学校になり終戦後は再び小学校になりました）

● 「音楽リズム」は幼稚園のための指導書として文部省から昭和二十八年に出ました。現在ではこれが一番新しい資料になっています。この中から歌唱ならびに器楽合奏に用いている曲をしらべてみましょう。

三十九曲を時代別に分類してみるとつぎのようになります。

● 小学唱歌集初編（明治十四年）

「むすんで ひらいて」

● わらべうた

「かごめ」「ひらいたひらいた」

● 幼稚園唱歌（明治三十四年）

「水あそび」「お正月」

● 大正時代

「ぶらんこ」「くつがなる」

● えほんしょうか（昭和六年）

「ちゅうちょう」「ちゅうりっぷ」「ままごと」「こいのぼり」

「たんぼぼ」「ひよこ」「金魚」「かみなりさま」「かけっこ」

「遠足」「菊の花」「もみじ」「お正月」「自動車」「おさる」

「雪」「豆まき」「あかちゃん」「ぎっこんばったん」「おにごっこ」

「ひなまつり」

● 児童唱歌

「砂山」「ちゅうちゅうねずみ」

● その他

「桜」「汽車ぼっぼ」「とけい屋のとけい」「雨」「おうちの前」

「お舟」「海」「郵便屋さん」「煙」「おもちゃのマーチ」

歌詞も文語調から言文一致唱歌に変わり現在にきています。

終戦後は民間で教科書を作った関係から新しい歌がぞくぞく生まれてきました。そしてテレビやラジオで毎日放送されるのでい

つのままに幼児はそれをまねてうたっています。

例 C・Mソングや鉄腕アトム、ウルトラセブンのうた等。

しかしこれらはいつまでもつづかないようです。

やはり幼児には幼児の長発達段階に応じた音域であり、歌詞であり、曲でなければなりません。こうしてその時代にあった歌が歌われていくと思います。

明治のはじめ「わらべうた」や「民謡」はいわゆる俗楽として学校唱歌には不適當と考えられていたようなので教材にはかけをひそめておりました。しかし子どもたちはお寺の庭や神社の境内で、また横町の露路などでいつまでも楽しく歌いあそんでいました。わらべうたはお母さんから、お母さんはそのまたお母さんから歌いつがれてきたもので、いくらうたっても、あきることなくきょうもあしたもあさってもとうたいあそはれています。わらべうたは常に新しく創造性を培う歌あそびとして、最もよい歌曲だといえましょう。

幼稚園で現在歌っているわらべうたをしらべてみましたところ

一位 はいないちもんめ 二位 かごめ 三位 あぶくたった
四位 とおりゃんせ 五位 竹の子一本、になっっていました。

このたびは幼稚園のための教科書とそれに準じた資料をあつめてみましたが、つきには幼児の歌について述べてみたいと思います。
(日本体育大学)

第四回みどり会夏季研修会について

本誌四月号で概略お知らせしましたが、お申込み方法など昨年と違うところもありますのでお間違いないよう、お早めにお申込み下さい。定員になりましたら期限内でもメ切らせていただきますのでご諒承下さいませ。

期日 八月十九日(月) 二十日(火) 二十一日(水)

場所 ホテル岡本 熱海市上宿町一二九

定員 三〇〇名

会費 一万二千元(宿泊料、食費とも)

内容 シンポジウムと分科会

① 周郷 博先生 ② 津守 真先生 ③ 外山滋比古先生

④ 太田次郎先生 ⑤ 本田和子先生 ⑥ 田口恒夫先生

⑦ 河辺 泉先生

申込み 左の様式の申込書(一人一枚)に会費(現金または振替)を添えてお申込み下さい。六月一日より受付けます。お取消しは七月三十一日までにお願いたします。その場合、宿泊料九、五〇〇円をお返しいたします。それ以後はお返しいたしません。ご出席は認めません。
(電話、はがきでのお申込みはおうけしません)

申込書

勤務園名	勤務園住所
氏名	夏休中連絡先
希望分科会	tel
会費	現金 振替
	どちらかを消す
	第一希望 ()
	第二希望 ()
	第三希望 ()

宛先 東京都文京区大塚二一―一

お茶の水女子大学附属幼稚園内みどり会研究部

振替番号 (東京 九九〇八五)